

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6月1日 / 年度末 3月 1日
氏名	野瀬 薫
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	ALO

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅡ	子ども学科	2
キャリア・デザイン	子ども学科	1
理科概論	子ども学科	1
国語科教育法	子ども学科	1
特別活動及び総合的な学修の時間の指導法	子ども学科	2
教育方法・技術論	子ども学科	2
生徒指導及び進路指導論	子ども学科	1
教職実践演習（小）	子ども学科	2
教育実習（小）	子ども学科	2
教育原理	子ども学科	1

②担任制度

担任（1年生）	有	担任（2年生）	有
---------	---	---------	---

③委員会活動

運営協議会		SD委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会	副委員長	広報委員会	委員
認証評価準備委員会	副委員長	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会		湖国カルチャーセンター運営委員会	委員
FD委員会	副委員長	授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	委員長
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	

資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し向上心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	・学生の毎時間の振り返りを大切にし、教員とのコミュニケーションの一助とする。可能な限り丁寧なコメントを心がけ、学生の学ぶ意欲に答えられるよう努める。 ・教職課程コアカリキュラムを踏まえたシラバスに則り、毎時間の課題を吟味の上精選するとともに、学生同士の意見交流を促すよう「問い」や「ワーク」を工夫する。 ・学生の自主的な学習を援助できるよう適切な復習の課題や発展的な学習課題を提示する。 ・教科教育法等においては、適切な機会を設けて ICT 機器を活用し、学生自らも使いこなせるようになるよう努める。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・講義においては、パワーポイント等を用いた資料により視覚的にも理解を深められるように配慮する。講義の要点等をとらえやすくする。 ・講義中にペアや四人グループで意見を交流できるようテーマに沿った「問い」や「ワーク」を多く設定する。 ・講義のまとめの段階で、「本時学んだこと」「本時考えたこと」を自分の言葉で表現し、ペアで意見交流を行う時間を設ける。 ・講義後の「振り返りカード」の記入を通して個別の質問を受けやすくし、学生の質問や感想に対して、できるだけ丁寧なコメントを心がける。 ・特別活動及び総合的な学習の時間の指導法をはじめ、可能な範囲で多くの体験活動を取り入れるように努める。 ・教科教育法の授業のみならず、他の講義においても可能な限り ICT 機器を活用する。
授業以外 （学生支援等）	・学生懇談会等の機会を有効に活用し、学生の思いをくみ取る。 ・学生から相談を受けた際には、同僚とも相談の上、チームとして真摯に対応する。 ・学生の様子、学び、頑張る姿・笑顔を伝えられるよう基礎力プログラムⅡやキャリア・デザインのグループワークの様子等について、Instagram等での発信に努める。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	・学生は熱心に講義メモをとる姿が見られ、講義後の「振り返りカード」を見ても、学生の理解が深まったと思われる。 ・講義のまとめの段階で行った「学んだことを交流し合うペア活動」により、「振り返りカード」記入の際にも、自分の考えを適切に表現できる学生が増えた。 ・「生徒指導・キャリア教育」の講義において、昨年度以上に生徒指導上の課題に対する事例研究やワーク等をより多く取り入れた。今後も学生がさらに意欲的に学ぶことができるよう発展的な学習課題等を適切に提示していきたい。 ・前年度の講義では「あなたは、この授業の予習・復習など自主学習に1週間あたりどのくらいかけましたか」という問いに対するポイントが低かったため、今年度は講義の復習用プリントを作成し配付した。しかし、今年度もあまり改善が見られなかった。
授業以外 （学生支援等）	・学生から相談を受けた際には、同僚とも相談の上チームとして真摯に対応した。 ・基礎力プログラムⅡやキャリア・デザインのグループワークの様子等、Instagramでの発信を行った。

5. 目標（今後どうするか）

授業	・今後も、ペアワークや学生同士の意見交流が活発にできる講義を目指し、学修テーマに迫る「問い」や「ワーク」の内容を工夫し、より有意義な意見交流となるように努める。 ・今後も、講義のまとめの段階で「本時学んだこと・考えたこと」を交流する時間を設定し、自分の学びを言葉で表現し、発信できる学生を育てられるよう努める。 ・今後も、「振り返りカード」等により学生の要望・思いをできるだけくみ取り、可能な限り丁寧なフィードバックを心がける。 ・学生が、試験前だけでなく、日頃から意欲的に学ぶことができるように、予習・復習の課題や発展的な学修課題を適切に提示していきたい。
授業以外 (学生支援等)	・担任制、個別支援、先生方との連携により子ども学科全体で、学生を支援していけるよう努める。自己点検・評価委員会については、本年度の反省を生かしより充実した活動となるよう努める。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教職員としての自覚	・法令順守、ハラスメント防止などに努めることはもちろんのこと、学科内での「報告・連絡・相談」、コミュニケーション等の促進に努めた。学生と、適切に関わろうと努めた。
広報・募集	・教授会資料や本学インスタグラムを通して、オープンキャンパスの動員数・アンケート、大学イベント情報等を把握するとともに、ペルソナを意識した発信となるように努めた。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上